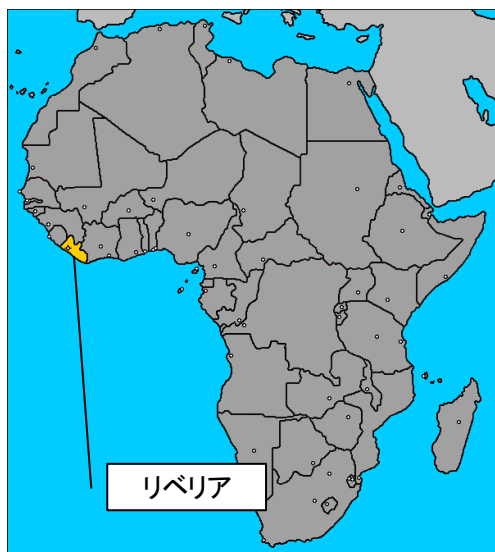




リベリア報告 By 河本 愛美

ARCのボランティアスタッフとして子ども兵士問題のキャンペーン「ストップ子ども兵士アクション」を引っ張っていった河本愛美が、英国ブラッドフォード大学院留学時に西アフリカのリベリア共和国での研修に参加しました。2003年に内戦が終結したリベリアの今を報告します。



2013年2月18日から3月3日までの2週間、大学院の研修でリベリアに行く機会がありました。本記事ではリベリア紛争の簡単な歴史と、その特徴の一つでもある子ども兵について、そして研修期間中に感じたことを伝えられたらと思います。リベリアはシエラレオネ、コートジボワール、ギニアの3国に囲まれた西アフリカ諸国の一つです。1989年から2003年まで約14年間にも及ぶ紛争を経験し、現在はアフリカ初の女性大統領、ジョンソン・サーリーフ大統領の元で紛争後の平和構築が進められています。

紛争の背景

1847年にアメリカからの解放奴隷(アメリコライベリアン)による独立を果たしたリベリアでは、1世紀以上にわたってアメリコライベリアンによる原住民を無視した少数政治が行われてきました。1980年に原住民であるサミュエル・ドウのクーデターによってアメリコライベリアン政権が倒されましたが、その後、ドウの自民族(クラン族)優遇の抑圧的な軍事政権と70年代から続く経済停滞によって市民の不満は激化。その不満を利用したチャールズテイラー率いるNPFL(リベリア国民愛国戦線)が1989年に隣国コートジボワールからリベリアに侵攻し、紛争が始まりました。

ドウの暗殺後、混乱に満ちたリベリア国内はテイラー率いるNPFLが国土の約60%以上を掌握し、政府軍、西アフリカ経済共同体(ECOWAS)から派遣された監視団(ECOMOG)、その他の武装グループ間で激しい交戦が続きました。1996年によく ECOMOG の仲

介により、政府軍、NPFL、その他の交戦グループの間で平和合意と休戦協定が結ばれました。1997年の選挙ではテイラーが大統領に選ばれ、一度は紛争に幕が下りたと思われました。しかし、過去の政権と変わらない抑圧的な少数政治と紛争の根本的原因を改善しようとしないテイラー政権に、2つの反乱軍が蜂起し1999年に紛争が再開。27万人にも及ぶ市民の死傷者と50万人以上の国内難民を生んだ第二次リベリア紛争は2003年、テイラーのナイジェリア亡命を機に交戦グループの間で平和合意が結ばれ、14年間の紛争に幕を閉じました。



リベリア最大の貧困街「West Point」

子ども兵

リベリア紛争では木材やその他の天然資源による収入や武装グループの分裂・統合が繰り返され、紛争中多くのグループが戦闘を行っていましたが、どのグループも多くが18歳以下の子どもを含む若者で構成されていました。リベリアにおける子ども兵の使用と言うと、チャールズテイラーが子ども兵だけで編成した「small boys unit」がよく知られていますが、第一次リベリア紛争(1989~1997)、第二次リベリア紛争(1999~2003)ともにテイラーのNPFL軍だけでなく、政府軍やその他の武装グループで子ども兵の使用が確認されています。またその多くが15歳以下の少年・少女との報告がなされています。

第二次リベリア紛争終結後の2009年時点における武装解除・動員解除では約11,780人の子どもが動員解除されましたが、実際は直接家族の元に戻ったり、戦闘中に部隊から逃げ出したりした子ども達などを含め15,000人以上の子ども兵が存在していたと言われています。また、紛争中に成人した元子ども兵は大人の兵士として武装解除・動員解除・社会復帰(DDR)のプログラムに登録されているため、子ども兵の数に含まれていません。近年、世界には約25万人の子ども兵が

いと推定されていますが、リベリアにおける子ども兵の数がどれだけ多いか見てとれると思います。

国連主導の正式なDDRプログラムは2009年に終了していますが、NGO主体での社会復帰プログラムは現在でも行われています。社会復帰プログラムでは初等教育を受けるための費用の支援や職業訓練などが提供されますが、リベリアの経済状況はまだまだ厳しく、昨年の労働状況の調査では国民の85%以上が失業あるいは収入が不安定な職業についている(家事手伝い、自営業等含む)と報告されています。つまり若者を中心とした元戦闘員が仮に職業訓練を受けたとしてもそれを活かすマーケットがない状態が続いており、多くはバイクタクシーや家事手伝い、露店等の自営業で生計を立てているのが現状で、経済的な社会復帰はまだ達成されていません。また、先ほど元子ども兵について触れましたが、紛争終結から10年経過し、彼ら(少女兵含む)の多くが成人しています。しかし彼らは幼少期を紛争中に、しかも戦闘員として過ごしているため、教育が受けられなかっただけでなく伝統的な文化や慣習、マナーを学ぶ機会を逃しています。そのため政府機関やコミュニティの年長者、また援助機関からも「ロストジェネレーション (Lost generation: 失われた世代)」と呼ばれており、今後のリベリア発展において大きな懸念材料となっています。



バイクタクシー(最近では元戦闘員以外の若者もこの仕事に就いている)

所感

2011年10月に現大統領であるジョンソン・サーリーフがノーベル平和賞を受賞しましたが、現在二期目である彼女の大統領任期中にどれだけ若者の社会的・経済的な地位向上と社会への融合ができるかどうか、今後のリベリアの平和構築にかかってくると思われれます。現在、リベリア国民の50%以上を24歳以下が占めており、2030年までの政策目標でも若者のエンパワーメントが必須課題とされています。しかし一方で、今回の研修でお会いした政府関係者や民間団体、援助団体関係者のほとんどが若者=「ロストジェネレーション」とし

て大きな不安材料としているのを感じました。持続可能な平和を構築していくにあたって、元戦闘員の社会復帰、あるいは社会再統合は必須条件と言われていますが、彼らを「ロストジェネレーション」とレッテルを貼ることによって、逆に社会全体が彼らの再統合を妨げているのではないかと感じました。今回の研修旅行では平和構築の難しさ、脆さを目や耳で感じることできた滞在でした。リベリアだけでなく、今後もアフリカの平和構築や地域情勢について高く関心を持ち、また少しでも貢献していけるよう活動していきたいと思っています。



サッカー場で菓子を売る少女たち

河本 愛美 (かわもと まなみ)

ブラッドフォード大学院修士課程、アフリカの平和と紛争研究に在籍。大学卒業後、民間企業に勤める一方、アフリカ平和再建委員会にてボランティアをしながら、子ども兵や彼らの社会復帰に関する勉強会やワークショップなどを担う。関心分野は紛争の影響を受けている子ども達の保護、紛争解決、平和構築(特に非西洋的な方法によるもの)など。修士論文のテーマは『リベリアの元子ども兵の社会復帰における伝統的手法の利用について』。



モンロビアのビーチでリベリアの学生と

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1四谷サンハイツ511

TEL/Fax : 03-3351-0892

E-mail : headoffice@arc-japan.org ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター始めました! アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています!

@ArcJapanNews どんどんフォローしてください!



フェイスブック始めました! 日ごろのARCの活動内容や、アフリカに関連するイベントや情報の発信をしています!

【ARCページ】 <http://www.facebook.com/ARCJAPAN> このページに「いいね!」、「シェア」をお願いします!